

(参考様式5)

事業活用活性化計画目標評価報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
宮崎県・小林市	452050	1	H20～H23	H20～H23
活性化計画の区域				
二原地区（宮崎県 小林市）				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実測値B	達成率(%) B / A	備考
定住等の促進に資する農業用排水施設等の機能の確保	42.2ha	42.2ha	100%	

(コメント)

目標である「定住等の促進に資する農業用排水施設等の機能の確保」は、計画していた農業用排水施設の整備により、42.2haの目標を達成することができた。

今後は、担い手の確保と定住化に向け、今回整備した施設の利活用・維持管理等の充実を図ってきたいと考えている。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
農業用排水施設	農業用パイプラインの整備 L=4,065.7m、客土 A=1.55ha			小林市
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
二原土地改良区	平成20年度	平成23年度	平成24年4月1日	

事業の効果

二原地区は小林市の北部に位置し、平成4年に県営ほ場整備事業が完了した水田地帯である。既設の水利施設は、頭首工から約4kmの用水路を経てパイプラインにより確保上に灌水されている。この頭首工は、国営西諸地区畑地かんがい事業で建設される浜ノ瀬ダム(大淀川水系岩瀬川)の直下流にあり、ダムからの用水が最も早く利用される地区となる。しかし、近年は施設の極度の老朽化や急勾配の山腹にある用水路の管理、集中的な降雨による度々の災害などで維持管理には多大な労力を要し、管理費の増大をもたらしている。

そのため農業従事者の多い本地区の活性化には、農地の生産性を向上させ農業所得の増加を図れるかが課題となっており、本事業にて農業用パイプラインを整備し安定した農業用水を確保することで営農条件の改善を図るに至った。

今回、農業用パイプラインの整備により安定した農業用水の確保が可能となり、農地の生産性向上が図られたことから、今後、施設園芸の規模拡大や収入の高い作物への転換を行い農業所得を増加させたい。

3 総合評価

(コメント)

本事業によって、農業用パイプラインL=4,065.7m、客土A=1.55haの整備を行い、受益面積42.2haの農地の生産性向上が図られたことにより、農業従事者の維持を図り、定住等の促進に資する農業用排水施設等の機能の確保ができたことから、事業活用活性化計画目標を達成したと評価している。今後は、施設園芸の規模拡大や収入の高い作物への転換を行い農業所得の増加を図り、地域活力を向上させ地区を活性化させる計画である。

4 第三者の意見

農業用パイプラインの整備により安定した農業用水の確保が可能となり、目標面積も達成されていると評価できる。今後は、水源の確保も進むことによって施設園芸等水利用効果の高い高収益作物導入の適切な指導が行われ、農業生産性の向上ひいては農業所得の増大、そして地域の活性化につながることを期待される。

(九州大学大学院農学研究院 教授 福田 晋)

【記入要領】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果(農山漁村の活性化に関連する効果)を幅広く記入すること。